

データ移行における留意事項

全般事項

No.	区分	内容	備考
1	項目範囲	法定様式は、令和5年4月1日改正までの対応です。	
2	台帳範囲	データ移行が可能な台帳は、[台帳管理]メニューの台帳(報告台帳を除く)と、[定期報告]メニューの建築物、昇降機、建築設備等、遊戯施設及び防火設備です。報告台帳(引受通知等)は移行できません。	報告台帳は移行できませんが、[台帳管理]メニューの台帳における済証番号、交付日、交付者により、「処分等の概要書」や「台帳記載事項証明書」は作成可能です。ただし、「処分等の概要書」、「台帳記載事項証明書」には、定期報告の情報は反映されません。
3	修正不能	データ移行後、下記3点は利用者の操作によって修正することができません。データ移行後に誤りが判明した場合、データを削除して最初から入力し直すなどでの対応が必要となります。 (1)当初確認・計画変更の別 (2)一般申請・計画通知の別 (3)行政受付・民間受付の別	移行後、データの修正をICBAで行う場合、原則として1項目当たり10万円(税抜)を申し受けます。
4	値限定	項目に格納され得る値が限定されているもの(例えば「有」「無」)は、例外値(例えば「あり」「なし」)が格納できないため、値欠落が発生したり、台帳登録閲覧システムのデフォルト値に置き換わったりすることがあります。	詳細:「 値限定項目 」参照
5	要注意	「空欄」の移行仕様や本来の移行先がわかりにくい項目など、特段の注意が必要な項目があります。	詳細:「 移行仕様誤り例 」参照
6	基本統計	下記項目は、値がない場合、データ移行はできても基本統計機能でカウントされないため、件数集計に支障を来します。 (1)決裁済区分(確認申請・計画変更):詳細右記 (2)処分日(中間検査・完了検査)	決裁済区分の値とそれを移行した後の台帳システム内の状況 ①タグなし:「決裁」データが未生成の状況となり、「審査中」であることを示す ②タグあり・値1:「決裁」データ生成済の状況となり、「処分済」であることを示す なお、移行後の台帳システムでシステムエラーが発生するため、「タグあり・値空白」と「空タグ」はセットしないようお願いいたします。
7	例外値	例外値(移行先とすべき項目が中間ファイルに存在しないもの)として「見出情報ーメモ」をご利用ください。申請様式以外の自由入力で、移行後に検索のキーとすることのできる唯一の項目です。	例えば元のシステムにおける「駐車場付置義務台数」という項目を移行する場合、「見出情報ーメモ」に”【駐車場付置義務台数】2台”などと移行します。

令和5年4月
一般財団法人建築行政情報センター